

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070600517
法人名	社会福祉法人 年長者の里
事業所名	グループホーム八幡 Aユニット
所在地	福岡県北九州市八幡東区大蔵3-2-1
自己評価作成日	平成29年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成29年11月1日	評価結果確定日	平成30年1月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から15年が経過した。入居期間12年を最長に5年以上入居されている方が、全体の約40%を占め、長期間安定的に安心できる暮らしを提供している。「地域密着型」の原点に忠実に、地域に外出したり、地域を招いたイベント等開催し、地域交流を実現している。また、大蔵地区で開催される徘徊模擬訓練に講師として、又、一般参加者として共に取り組み、地域貢献に還元している。看取り介護にも取り組んでおり、特定の条件下ではあるが、看取り介護の実績も積み上げている。また、敷地内の他事業所・他職種とも連携を図りながら、ご入居者の安心に寄与している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

約9000坪の用地内には介護及び医療の多種事業所が集積し、法人全体行事や地域行事、多数のボランティアの方々の来訪、徘徊模擬訓練、福祉避難場所、認知症疾患医療センター等、様々な活動を通じて地域拠点としての役割を担っている。外出や社会参加の機会も多く、日常的な散歩や複合施設内の散策、ヤフオクドームでの野球観戦、地域の伝統行事や酒蔵開きへの参加等、積極的な支援が行われている。開設して16年目を迎える中で、長期に入居されている方も多く、階下にあるクリニックや法人内の様々な専門職との連携を活かし、医療ニーズへの対応や個別のリハビリメニューの実施等、様々なニーズに向き合いながら、個別の暮らしの継続を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である『地域貢献』を基本にしながら、ホームの理念に「地域との密接な関係作り」を掲げており、職員はその精神に則って介護を行っている。	法人理念のもとに、地域密着型サービスとしての独自の理念を掲げている。年に1回、研修の中で取り上げ、年度の事業計画を策定を通じてもその実践に努めている。法人理念についても、入社時や式典の際は理念の共有を図り、法人歌の歌詞にもその思いが込められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園園児との交流・地域の酒蔵開放イベント・起業祭等参加している。また、傾聴ボランティア・実習生を受け入れ、交流している。	納涼祭は地域に向けての大々的なイベントとなっており、地域住民、入居者、家族等含めて、法人全体で1000人規模の参加となっている。ボランティアの方々の受入れも多く、法人全体で年間3000人以上となっている。地区主催の徘徊模擬訓練にも参加し、声かけや対応等について情報提供を行う等協力を行っている。地域の酒蔵開きには入居者と共に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、認知症に関する知識など発信、報告している。また、大蔵地区で開催された徘徊模擬訓練にも講師として又地域の一員として参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じて、自己評価の配布や、各種取り組みに関して報告を行い、意見や感想を取り入れている。	2ヶ月に1回開催される運営推進会議には、入居者、家族、町内会長、地域包括支援センター職員、成年後見人、法人内居宅介護事業所職員等の出席を得ている。家族は持ち回りで参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員を運営会議の委員として参加して頂いている。2ヶ月ごとの運営推進会議開催の際には、意見交換を行っている。	申請や更新時、運営推進会議、徘徊模擬訓練等の活動を通じて、情報共有や意見交換を行い、協力関係の構築に努めている。また、高齢者福祉事業協会の地域密着部会に参加し、多事業との相互見学会等の活動を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な職員会議の中で、身体拘束について勉強会を開催している。	「福岡県身体拘束ゼロ宣言」に参加し、内部研修の実施や家族とも共有認識を図りながら、個別のより良いケアの実践に取り組んでいる。職員の言葉かけや表現方法についても、日常の中で振り返りながら指導を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な職員会議の中で、法人のマニュアル等も活用しながら、虐待について勉強をしている。また、新聞記事等も取り上げて、虐待防止に関して自己啓発も促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者がいる。必要に応じて、職員は成年後見制度に関する研修に参加し、そこで学んだことを職員会議に反映させている。	現在、権利擁護に関する制度を活用している方もおり、後見人の方の定期的な訪問や運営推進会議への参加実績がある。研修実施や個別の事例を通じた学びの場面があり、また、多種・多事業を展開する法人全体としても、制度活用の実績や事例を積み重ねており、必要時には法人内専門職や関係機関との連携も活かしながら支援を行える体制にある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際には十分な時間を取り、契約内容について不明な点などは、気軽に聞くことができる姿勢をとっている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ご意見箱」を設置している。また、面会の際には積極的にご家族との接触を図り、そこで出た意見を運営に取り入れている。	面会時や電話、メール等を通じて、家族意見の収集やコミュニケーションを重ねている。運営推進会議には、全家族が持ち回りで出席しており、法人としての満足度調査実施やオンブズマン会議の中で意見箱が開錠される等、開かれた事業運営への取り組みがある。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を通じて、管理者に運営上の意見や提案をおこなっている。それを基に「風通しの良い職場」を作っている。	管理者は平素より、スタッフとコミュニケーションを図り、意見や提案の収集に努めている。また、全員参加を基本とする月例会議の中で協議を行い、風通しの良い職場環境づくりに努めている。随時ミーティングも含め調整された内容は1ヶ月間程度試行し、継続するか否かを決定する。また大きな内容においては、法人内グループホームの管理者会議において話し合われることもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の都合を出来るだけ反映させた勤務体制としている。また、資格取得(介護福祉士・ケアマネジャー)ができるよう休日等配慮している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	法律に則った募集・採用を行っている。定年後の再就職として介護している者も多くなる。勤続年数10年以上の職員も多く、行えている。	人事においては法人全体で管理され、定年後の再雇用制度や新人職員応援制度、産休・育休の取得と復帰に向けた支援等、働きやすい職場環境づくりに配慮している。未経験者は法人内での研修等において資格取得を応援したり、新入職応援として数ヶ月上乘せの給料等、柔軟で手厚い対応がある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入職時に必ず人権研修を行っている。	入職時には必ず人権研修を実施している。また、内外の研修機会を確保し、認知症ケアやマナーアップ研修、コンプライアンス研修の実施、法人として職員のストレスケア相談窓口を設ける等、人権啓発に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員はその要望も考慮しながら、様々な研修に参加する機会を確保している。それを日常業務に反映させている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北九州高齢者福祉事業協会地域密着サービス部会に所属し、他の同業者と定期的に交流・意見交換・見学会を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居間もない方には、他入居者との接点を増やしたり、職員とのなじみの関係が築けるように、積極的に接している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設利用がはじめての方が多く、ご家族も不安を抱えていらっしゃる方が多い。電話や面会を通じて、本人の様子を細かく伝えている。また、要望・意見は遠慮なく言って頂けるような雰囲気を作っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居者の心身状況や生活歴、趣味、得意分野等を考慮し、「その時」の支援を見極め、家族や看護師・インフォーマルサービスなどを加味した上で連携を取り、サービスの提供に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの心身の状態に応じた、暮らしの中の作業をして頂いている。掃除や洗濯等職員と共に行う事を基本としている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも施設運営に協力していただき、個別外出や起業祭など、一緒に介護を行う場面が作れるようレクリエーションにも参加頂いている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に面会者の制限はしていない。事前の連絡があれば宿泊も可能としている。	地域との交流も多いため、友人・知人の面会も多い。入居後も趣味や役割を継続できるような支援を心がけている。地元ならではの酒蔵まつりや起業祭には毎年参加している。家族との協力も図りながら、自宅の仏壇やお墓へのお参りにも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの座席位置など、孤立しなくて済む環境を作っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近年の退去理由は、当ホームでの看取りや入院後の死去が多い。その家族の求めに応じて、ご家族の心身の負担軽減に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分で希望などを言えない方が多い中、日ごろの生活や一瞬の「笑顔」をヒントに、入居者が求めているものを探るようにしている。	入居時には、生活暦も含め意向や思いに触れている。また、平素より散歩や入浴の場面等、1対1のコミュニケーションを図る中で、ゆっくりと会話し、その際は表情や笑顔を見ながら思いを探っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活暦を把握していないキーパーソンも多くなる。ケアマネジャーから情報を取得したり、日ごろの会話の中で、入居者の歴史、サービスに至った経緯を把握している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを行い、一人ひとりの現状の把握をしている。また、日々変化する状態像について、申送ノート等を通じて、情報を共有・把握している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全体会議を通じて、全職員の意見を交換・集約している。その上で、カンファレンスには原則ご家族に出席頂き、ご家族・ご利用者の要望に沿ったケアプランの作成に努めている。	新規及び計画更新時には、作成担当者の原案を全体会議にかけて事業所としての原案としている。その上で家族を含めた担当者会議を経て、計画を交付している。モニタリングはケアスタッフが担当しており、ケアチームとしての役割分担もしっかりできている。個別の行動計画や法人内専門職との連携を活かしたりハビリメニュー等も活用しながら日々の実践状況を確認し、見直しに活かしている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一瞬の会話や、日常の様子を細かく記録しており、その内容を職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の同一敷地内に高齢者施設・介護事業所があり、必要に応じて他職種との連携にとり取り組んでいる。また、そのケアに関する要望等について、柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天気のいい日は近隣を散歩し、地域の人と挨拶をする関係が保たれている。また盆踊りに参加したりしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方は、併設の医院が主治医になっており、2週間に一度は訪問診療を受け、日ごろから支援を受けることができている。	市内に3か所設置されている認知症疾患医療センターが複合施設内の1階に位置しており、2週間に1回訪問診療が実施されている。初診については、家族にも対応をお願いしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師による健康チェックが行われ、状態説明や相談を行い、健康管理に努めている。また、24時間連絡が取れる体制を取っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療相談員やご家族との情報交換は密に行い、職員はできる限りお見舞いに行くようにしている。入院受け入れがスムーズに運ぶように協力病院と契約を交わしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りに関する指針」を示し、家族に同意を得ている。看取り介護には、医療との連携が不可欠であり、日ごろから医師との密接な関係を作る努力をしている。ご家族にはホームでは対応できない事柄を入所時に説明している。	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について示された事業所としての指針の説明をして同意を受けている。常態変化時においては、主治医や看護師も含めて状態の説明とその後の対応を協議していく体制がある。また、法人内の専門職による多職種連携や看取り後の振り返りカンファレンス等を通じて、チームケアの質を高める取り組みがある。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、全職員を対象に訓練や講習を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、入居者も避難場所までに避難を行っている。法人全体として地域と防災協定を締結すると共に、運営推進会議等を通じて、協力をお願いしている。	町内会と防災応援協定書を交わし、火災・地震・風水害・土砂崩れに対する研修も実施されている。土砂崩れに対し、具体的な想定での避難訓練も実施経験がある。法人施設は福祉避難場所として登録されており、地域の災害時には受け入れ可能な体制にある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員への基本的な接遇や個人情報保護の取り扱い等は、入職時の研修やマナーアップ研修を通じて実践している。	入職時及び継続的に実施されるマナーアップ研修を通じてスキルアップされている。入居時個々の生活のペースはできる限りその方のペースを尊重され、無理に全体に合わせないように配慮されている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、自己決定ができる場面が増えるよう努めている。その時々に応じて、今、何を行いたいかわっている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々人のタイムスケジュールは基本的にケアプランに反映されているが、その日の要望や天候、体調によって変更している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の更衣、洗顔や入浴後の整髪等、身だしなみには注意を払っている。希望する方には、化粧水等も使用している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備ができる方は準備を、片づけができる方は片づけを、テーブル拭きができる方はテーブル拭きを、などと役割分担ができている。	法人内管理栄養士との連携を図り、個別のアドバイスも受けながら食事を提供している。行事の際等は法人厨房との連携も図り、回転ずしやお好み焼き、うどん等の外食の機会も確保されている。食物繊維強化米を用い炊飯されている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた献立を作成している。また職員は、適切な水分量が確保できるよう日々記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実践している。またご利用者個人の能力も把握し、介助している。また、必要な方には、訪問歯科診療も実施している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターン取得・実践に努めている。できるかぎりトイレでの排泄に取り組んでいる。	排泄用品の選択や使用方法も含めて個別の検討が行われ、排泄チェック表を用い、個別に10パターン程度の対応方法を設けている。夜間、居室からトイレに向かう専用の手すりを設置する等、個々に合わせた自立性と安全性にも配慮されている。食物繊維強化米を用いる等、便秘予防にも配慮され、必要時の服薬も細やかに調整されている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態像に応じて、主治医と連携を取りながら、食品・内服薬等工夫している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	原則週3回の入浴が確保できるよう工夫している。その日のご入居者の気分も加味し、必要に応じて入浴時間や日付を変え、また入浴剤なども使用して入浴を楽しんで頂いている。	日常的に入浴準備を行い、週に3回程度の入浴を基本として、希望や状況等に柔軟に対応している。菖蒲湯等の季節湯や入浴剤を用いて入浴を楽しむ機会もある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠たい時間に眠れるように支援しているが、基本的には日中は活動し、夜間に眠れるよう昼夜逆転がないようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医と連携を取りながら、内服薬等の目的・用法・用量・副作用等把握している。また変化があれば、個別記録及び申送りノート等を通じて状態を把握している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ケアプランに役割を取り込んでおり、できることはやっていたり、できないことは支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により買い物や散髪など個別の外出に対応しており、春や秋等天候のいい季節にはドライブなども企画し、その日の天候や体調を考慮に入れ取り組んでいる。	事業所周辺を屋外歩行に出たり、気候が悪ければ広い複合施設内を歩行するなど、日常的な外出支援が行われている。また、個別の希望に応じて、ヤフオクドームに野球観戦に行ったり、夢が叶った場所への外出、近隣のお好み焼き店や回転寿司等の外食もある。地域行事の参加も含め、積極的な外出支援が行われている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者のその能力に合わせ、ご家族又はホームで金銭管理を行っている。小銭を管理しているご利用者は、散歩時に自動販売機などでジュースを購入している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があればご家族に電話をかける支援をしている。また、居室にも電話機が設置できる環境がある。年賀状等の作成の支援もしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分特に水回りの台所、便所、浴室は不潔になり易いので清掃には力を入れている。居間は昼間長く過ごす場所なので、室内温度は一定に保つよう調節し、常時テレビをつけっぱなしにせず見る時間、静かな時間、BGMだけの時間をとっている。	入居者とスタッフで作成された飾り付けやカレンダーも効果的に配置されている。居室入り口には表札もあり、共用部分としっかりと区分されている。室温や湿度の管理も徹底されて、また、BGMやテレビの放映時間も考慮されて快適な空間設定がなされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの座席位置は孤立をしないで済む配置を考えている。但し、独りになることができる時間も確保している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使われていたものをそのまま持ち込んでいただくようにしており、新調はなるべくしないで済むように努めている。	入口の引き戸はそれぞれデザインが異なり、畳敷きの和室に洗面台の備えがある。その他の家具(筆筒・鏡台等)は馴染みの物が持ち込まれ、仏飯の提供等個別の支援が行われている。配置や動線の確保にも配慮され、手作りの日除けが設置されたり、針仕事の道具が持ち込まれていたり、生活感や個性あふれる居室が多い。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	独歩、歩行器、車椅子など、その身体機能には差はあるが、自立して生活することが出来るよう、その室内環境に配慮しながら、見守りを行っている。		